

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「誠心誠意」グループホームの理念「共生笑喜」を掲示し、朝礼などで確認しています。	法人理念とグループホーム理念がありリビングに掲げられており、来訪者や利用者、職員が常に目にすることが出来る。「共生笑喜」の理念は文字通りで、理念に基づき利用者一人ひとりの今までの生活を継続できるように気配りし、笑顔の絶えない生活を目指している。職員は朝礼や会議でお互いに確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練に地域の方に協力して頂いたり、地区の行事、防災訓練に参加するなど交流を深めています。	自治会には法人が加入し協力費を納めている。玄関にはAED設置の掲示をし非常時の使用も可能であることを来訪者に伝えており、9月に行われた地区の防災訓練にも職員が参加している。地区主催の「ふれあいの会」に数人の利用者が参加し、体操やハーモニカ演奏など、地域の方と一緒に楽しんでいる。近隣の市の民生委員の視察の受け入れをしたり、美容師による顔のマッサージ・お化粧、踊りのボランティアなどの訪問もある。地区の春祭り、しめ縄作りなどにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長さん、区長さん、児童民生委員さん等に認知症の介護等でお困りのことなどあれば、相談、支援する旨をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会において利用者様の状態やサービスの実際、評価について報告及び話し合いがなされ、そこでの意見を取り入れサービスの向上に努めています。	家族、併設小規模多機能型居宅介護の利用者・利用者家族、自治会長、区長、民生委員、地域住民、消防職員、市職員、包括支援センター職員などが委員となり、活動や利用者状況、事故などの報告をし、要望等についても話し合っている。11月の防災訓練時には委員に訓練に参加していただきその後会議を行った。今後、無理のない程度に委員と利用者との交流も計画したいという意向もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者さんとは日頃から連絡を密にとり事業所の実情、取り組みをお伝えしている。(運営推進会議・電話、訪問相談など)	介護相談員が3ヶ月ごとに来訪し利用者話し、気づきがある時にはそれを職員に伝えている。介護認定の更新申請について家族から依頼があれば代行している。調査時には家族の同席も含め利用者の現状を正しく伝えている。地域の介護を要する独居老人などについても市関係部署との連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階に玄関があり、階段で2階に上がるとグループホームの入り口がある。1階玄関の施錠はしていないが、2階の入り口は階段のすぐ側にあり転落防止の意味合いで電子ロックシステムを使用している。それ以外は身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	帰宅願望の強い方には「寒いから泊まっていきませんか」と声がけしたり、早朝の時間に散歩を希望する利用者には職員が早い時間帯にホームの近所を一緒に歩いたりしている。転倒防止のため家族同意のもとセンサーマットを使用しているケースがある。2階入り口の戸は階段に直結するような造りで転落のリスクが大きいことから、家族とも話し合い事故防止のため施錠している。勉強会で学び、身体拘束による弊害について理解を深め対処している。	

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は外部研修や内部研修において高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされる事が無いよう虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修に参加し、自立支援や成年後見制度について職員に伝達研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約時にご利用者様や家族様に不安な点や疑問点をお尋ねし、十分な説明を行うことによりご理解、納得して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表としてご参加頂き、意見を頂く機会を設けている。ご利用者様のケアプラン確認の際にはご家族様の意見をお聞きする機会を設けるようにしている。	利用者9名は言葉や表情で意思を伝えることが出来る。普段は言葉を発しない利用者から夜中に「ありがとう」の言葉をかけられることもあるという。家族は全員市内在住の方々で毎週から月2回ほどの訪問があり、家族が来られた時の対応については窓口を統一し、主任、管理者が利用者の近況を報告し要望などを伺っている。今年度は100才を迎えた利用者の誕生会に全家族に声がけし参加をお願いし交流をすることができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員全体会を開き、業務連絡、伝達研修、全利用者の状況について話し合いをしている。毎朝朝礼があり、職員同士の意見交換は常に行われている。	毎月、原則として全員参加(明けの方を除く)の定例会を実施しており、業務連絡、伝達研修、利用者の現況報告、カンファレンスなどを行っている。平成28年度から居室担当制をスタートし、定例会でも各職員からの意見が活発に出されている。今後、職員各々の目標を掲げていただき、管理者と現場職員の個人面談を行いたいという意向もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週に一度ホームで昼食を摂り、職員やご利用者様と楽しく会話しながら現状の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量について把握出来るよう情報の収集を行っている。管理者は職員の力量に応じて外部研修や内部研修に参加させ、働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の法人の事業報告会等に参加したり、他法人の研修会に参加したりして同業者との交流やネットワーク作りを進めています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には、本人が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けるようにしています。(ご自宅や入所されている施設に訪問し、安心できる環境づくりを進めています)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の締結時にご利用者様や家族様に不安な点や疑問点をお尋ねし、十分な説明を行うことによりご理解、納得して頂くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの相談事に関しては本人やご家族様が困っていることを確認し、「その時」必要としている支援を見極め他のサービスの必要があれば対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とは共同生活を共にする者同士協力して生活が出来る様、食事作りや食事の片付け、洗濯物たたみなど一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診の際はご家族に支援して頂いたり、行事の際は招待状をお出ししホームにお招きすることで共に楽しいひとときが過ごせるようご家族様との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご近所の方の面会があった際はゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。又、地区の行事などには参加を促し関係が途切れないようにしています。	開設よりの方が三分の二と多く、利用者も友人も高齢となり訪問の回数も減少している。利用者や職員が馴染みの関係となっており、入院していた利用者が「早くつばさへ帰りたい」と訴えられたこともあるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を把握し、仲の良いご利用者さんだけでなくそうでない方も関わりが出来る様支援しています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら本人や家族と電話連絡や面会など行い、必要があれば相談を受け付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、思いや暮らし方の意向などを確認できるよう、ご本人やご家族からご希望をお聞きできるようにしている。	ホームの入浴時間は午前中となっているが、利用者から夜の入浴希望が出されたときには入れるようにすることもある。また、利用者が出来ることを少しずつ継続してお願いしている(食器の片づけ、洗濯物のたたみ、職員と一緒に掃除等)。利用者との会話の中でも「遠慮しないでどんどん声を掛けてください」と伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや希望の把握と同じく、生活歴や馴染みの生活、サービス利用の経過について把握できるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来るちから、身体能力、心身の状態に応じて暮らしの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員全体会において全利用者のモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成するようにしています。	居室担当者が利用者の状況の変化などを定例会で発表し職員で話し合っている。毎月、全利用者のモニタリングとカンファレンスを行っており、見直しも6ヶ月毎に行っている。今年に入ってから、家族へのケアプラン送付時に「グループホームへの意見・要望」など書いていただく調査票を同封し、要望等を聞き入れるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録、ケアプラン実行表を用いて気づきや工夫を記入してもらい、職員間で情報を共有しながら介護計画に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、買い物代行、個別の外出など柔軟な対応が出来る様サービスの多様化を進めています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加させて頂き、豊かな生活が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中7名のご利用者様がかかりつけ医の訪問診療を受けている。2名のご利用者様はご家族の支援のもと適切な医療が受けられるようになっています。	協力医による月2回の訪問診療と24時間体制の訪問看護を受け入れている。家族付き添いでかかりつけ医へ通院している方もいる。利用者には特別な変化があれば家族へ連絡し受診する体制となっている。歯科医による月1回の訪問診療があり、口腔ケアにも力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、訪問看護との協力しながら、情報を共有し、利用者様が適切な受診が出来る様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医、訪問看護と協力しながら、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応や看取り支援について職員研修を行うと共に、医療関係者、家族との関係を密にしながらチームで取り組んでいます。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」を説明しており、「終末期ケア(看取り)に関する同意書」も作成されている。終末期に入った家族の意向に沿い医師、看護師と話し合いを行い対応している。過去に希望され終末期をホームで過ごし職員体制を整えていたが家族の揺れ動く気持ちもあり、自宅へ戻り看取りとなったケースもある。ホームでは家族の意思を最大限尊重し対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民に協力をお願いし、年2回の避難訓練に参加して頂いています。今年度は地区の防災訓練に職員が参加しました。	年2回避難訓練を行っている。今年度は運営推進会議と同日に行い委員の参加や感想などを聞くことが出来た。避難用の滑り台を利用者の代わりに職員が使い避難をした。消防署員より講評があり、防災頭巾をかぶり避難訓練したことに良い評価を頂いたという。毎月、自主検査表に沿い防災器機などのチェックを行っており、備蓄も準備されている。	

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するよう心がけ、入浴や排せつなどの際もプライバシーに配慮したケアを心がけています。	前回の外部評価の目標達成計画で「自分がされて嫌と思うことは利用者にもしない」ということを掲げ、認知症に関する研修を全職員対象に行った。ベテランの職員が多いが改めて現状を振り返り再認識し、排泄介助等、統一したケアを目指している。利用者と職員の信頼関係もできていることから今のところ異性介助を嫌がる利用者はいない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定できる機会を大切にしています。着替える際どの様服を着るか。お菓子なども食べたいものを選んでいただくなど工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大事にその人らしい生活が送れる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の出来るご利用様が少なくなってきたが、片付け等は一緒に行うようにしている。	職員が交代で手作りの料理を提供している。調理に手を出せる利用者は少なくなったが、おひたし等の野菜の下ごしらえをしたり長ネギの収穫のため畑に出かけたりしている。温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、利用者にあった形態で、利用者と職員が「いただきます」の一声をかけ一緒に食べている。おやつを手作りをすることも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の献立は栄養士が作成していますがおやつは手作りを中心にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔を保つようになっています。定期的な歯科受診(訪問診)を受け歯科衛生士さんに口腔ケアの指導を受け、日々の口腔ケアに活かしています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については一人ひとりの排泄パターンを把握し対応しています。	利用者一人ひとりに合わせた対応をしている。日中は布パンツ着用で夕食後にリハビリパンツに履き替える方、体調に応じてパットの種類を変える方など、日頃の生活の中で利用者の自信に繋がるように支援している。夜間、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前のお茶にはカスピ海ヨーグルトを食べて頂いたり、水分の接種を促したりして出来るだけ自然な排泄が出来る様取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴して頂いています。	1週間に2回以上の入浴を予定し声がけしている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所のリフト浴を利用する利用者が数名おり職員二人対応で実施している。利用者に気持ち良く入ってもらえるように言葉掛けを考えながら楽しい雰囲気づくりをしている。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間活動を増やすなど夜間穏やかに入眠出来る様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者様の内服薬について理解しており、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片付け、洗濯物たたみ等生きがいや生活に張り合いが持てる様な支援をしています。嗜好品などあればそれを活かせる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒冷地のため冬場の外出は難しいですが、四季を通じて暖かい日は散歩に出るなど頻りに外出するようにしています。地区のふれあい教室に参加しました。	冬場を除き、天気の良い日には無理のない程度に散歩に出て外気浴をしている。平均年齢86.9才、介護度3.5で外出時の車いす対応の方が三分の二という現状で全員そろって外出することは難しく、少人数で地域の行事などに出かけている。お花見などにも出掛けている。	利用者が高齢であつたり車いすの方が大半を占めるようになってきているが、外出することで気持ちをリフレッシュさせることが出来るものと思われる。地区の「ふれあいの会」など、外部の楽しめる場への参加などを含め外出の機会を多く持たれることを期待したい。

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用してご自分が欲しいものが購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人親戚の方からのお電話をお繋ぎしたり、手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間等ことよく生活できるように季節が感じられるような飾りをして工夫しています。	リビングのテーブルは利用者が向かい合うように配置されており食事をしたりお茶を飲んだり、また、体操などを行っている。リビングにはソファも置かれ、自由に移動し利用者同士仲良く話している姿も見られた。観葉植物や加湿器が置かれ、塗り絵なども飾られている。レクリエーション用のDVD、輪投げ用の輪、風船なども置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを配置し、気の合うご利用者さん同士ゆっくり過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族に相談し馴染みの物を持ってきて頂いたり飾るなど工夫しています。	ベッドとお湯が出る洗面台が備え付けとなっている。居室入り口には名札が付けられ目隠しを兼ねて暖簾が下げられている。ドアのすりガラスに光を遮断するために紙を貼っている方、壁に可愛い動物の写真を貼っている方など様々であった。壁に年賀状や家族の写真、中には法人の会長が書いた字を気に入り、筆字のホーム理念を飾られている利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態や出来る力に応じて安全に自立した生活が遅れる様支援しています。トイレの場所を解りやすくする。居室が分かるよう表札など工夫しています。		